

15-3. 平成 30 年度 彦根市立病院大規模災害訓練について

彦根市立病院 DMAT 安田誠一

平成 30 年度の院内大規模災害訓練は 11 月 9 日に行われました。昨年度は当院では初めてとなる放射線災害対応訓練を行い、さらに今年 6 月にもその時の課題克服のための訓練と放射線災害対策を中心とした 1 年となったため、広域災害での多数傷病者を想定した訓練は 2 年ぶりとなりました。今回の訓練の目的はスタッフの入れ替わりもあった中で前回と同様の流れで円滑に傷病者の搬入→治療→搬出が可能かというところの確認であったため目新しい部分は少ないものとなりましたが、傷病者数を 20 名と少なめに設定したこともあり結果的には特に混乱することなく訓練を終えることができました。このあたりはアクションカードの完成も含め、今までの積み重ねにより当院での災害対応の体制がある程度形になってきた要因が大きいのではないかと考えています。また今回の訓練にも湖東地域の他病院の関係者や保健所からも多くの方が見学に来ていただきました。湖東地域の災害医療を円滑に行うためには、保健所を中心とした湖東地域の全ての医療機関の連携が重要となりますが、その意味でも顔の見える関係を築くことができたことは意義深いことであったと思います。

また最近は大規模災害時には、傷病者の搬入、搬出のみではなく、最低限の医療サービスを維持しながら可能な限り早期に通常業務に移行するための総合的な対策が要求されており、そのために当院でも平成 30 年 3 月に Business continuity plan (BCP) が策定されました。来年度の訓練では遅ればせながら当院でも BCP を検証するための訓練を予定しています。他業種、他病院との連携を深めながら、さらに実践的な災害対応のための訓練をこれからも進めていきたいと考えています。